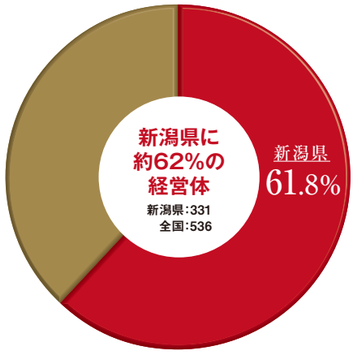
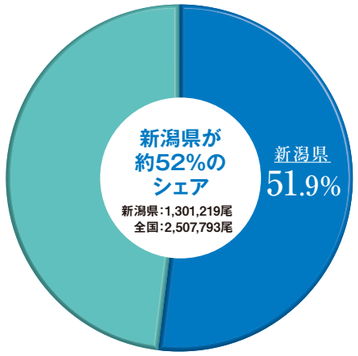
日本国内における錦鯉の生産状況

日本国内における錦鯉の生産額は、年間83億円を超えています。全国には500を超える錦鯉経営体数がありますが、その半数以上が錦鯉発祥の地である新潟県にあります。
また、錦鯉販売尾数においても、日本全体の半数以上を新潟県が占めています。



【日本国内における錦鯉養殖業の経営体数】
※2018年漁業センサス報告書（農林水産省）



【日本国内における錦鯉販売尾数】
※令和2年漁業・養殖業生産統計（農林水産省）

世界に広がる錦鯉

錦鯉は、日本から40以上の国と地域に輸出されています。
また、日本以外でも錦鯉の生産国は増加しており、錦鯉に親しむ国はますます増えています。

※写真提供：（株）錦彩出版

同時開催

世界錦鯉サミットと同会場（朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター1F）にて開催。ぜひお立ち寄りください。

※上記イラストはイメージです。

クールジャパンEXPO in NIIGATA

令和4年 11月5日(土)・6日(日)
(10:00〜17:00)

会場 朱鷺メッセ
新潟コンベンションセンター「展示ホール」
〒950-0078 新潟県新潟市中央区万代島6-1

■主催：クールジャパンEXPO in NIIGATA実行委員会

入場無料

Japan. Cool Japan.

錦鯉 | ミシュラン グルメコーナー | 日本酒・クラフトビール | 伝統工芸品 | 他、多数ジャンル出展 | ステージイベント

WORLD NISHIKIGOI SUMMIT

錦鯉の原点から、世界へ。

NIPPON,
NIIGATA,
NISHIKIGOI.

世界錦鯉サミット

令和4年 11月6日(日) (10:00〜15:30)

会場 朱鷺メッセ 国際会議場（マリンホール）
〒950-0078 新潟県新潟市中央区万代島6-1

■主催：世界錦鯉サミット実行委員会 【構成団体】新潟県、長岡市、小千谷市、一般社団法人全日本錦鯉振興会
■後援：内閣府知的財産戦略推進事務局、外務省、農林水産省、経済産業省、日本貿易振興機構（ジェトロ）
一般社団法人新潟県錦鯉協議会、一般社団法人全日本愛鱗会、日本観賞魚振興事業協同組合

同時開催

クールジャパンEXPO in NIIGATA

開催趣旨

“NISHIKIGOI” TO THE WORLD.

日本が世界に誇る錦鯉。
その発祥の地である新潟県で、世界初となる「世界錦鯉サミット」を開催します。
模様の鮮やかさ、美しさから“泳ぐ宝石”と称されるほど、
錦鯉の芸術的価値は高く評価されています。
また、錦鯉は穏やかな性格で、優雅に泳ぐ色とりどりの姿は平和をイメージさせるものです。
新潟から、世界へ。
世界錦鯉サミットで、錦鯉発祥の地からその魅力を伝えていきます。

開催プログラム

PROGRAM

【第1部】 10:00~12:00

1／開会式
2／基調講演：「泳ぐ宝石『錦鯉』―その誕生の歴史と魅力について」
　講師：菅 豊 氏（東京大学 東洋文化研究所 教授）
3／パネルディスカッション：「錦鯉を通じた経済・文化の交流について」
4／サミット宣言

【第2部】 13:15~15:30

1／各国における錦鯉事情について
2／品種の基準と錦鯉証明システムについて
3／品評会・審査員基準と、オンライン品評会システムについて
4／クロージングリマーク

新潟県について

About NIIGATA Prefecture

新潟県は本州の日本海沿岸のほぼ中央部に位置し、
海、山、川といった変化に富んだ広大な県土に恵まれています。
四季の表情がはっきりとしており、全国に誇る農林水産物、
歴史・文化や自然景観、温泉やアウトドア、レジャーなど、
多彩な魅力にあふれています。

交通アクセス

【上越新幹線】
東京～長岡／約100分
東京～新潟／約120分
【飛行機】
大阪（伊丹）～新潟／約70分

錦鯉発祥の地・新潟

錦鯉とは、赤・白・黒を始めとし、金、銀などの鮮やかな色彩をもつ、日本を代表する鑑賞魚です。
錦鯉は、およそ200年前、新潟県長岡市と小千谷市にまたがる、二十村郷（にじゅうむらごう）と呼ばれる山間部で生まれたとされています。
豪雪地帯であるこの地域では、冬のタンパク源とするため、水田で食用の真鯉が飼育されていました。
その真鯉の中から突然変異によって色のついた鯉が生まれたのが錦鯉の始まりと言われています。
新潟県では現在でも家族単位の小規模な事業者が、棚田の池で伝統的な養殖方法を続けています。

※写真提供：（株）錦彩出版

錦鯉の品種

錦鯉といえば赤・白・黒を基調とした「御三家」と呼ばれる「紅白・大正三色・昭和三色」が有名です。
長年の生産者の努力により美しい錦鯉の数々が全国で生産されるようになり、今では100を超える品種があると言われています。
新潟県では、県としても従来にない色彩の錦鯉の開発にも取り組んでおり、2014年には、約17年もの年月をかけ、珍しい黄色系の新品種「黄白」の安定生産に成功しました。さらに、「黄白」を使った新品種開発にも積極的に取り組んでいます。
新潟県の錦鯉養鯉業者数は全国で最も多いため、ほとんどの品種がそろっています。新潟に行けば欲しい鯉が必ず見つかると言われ、「錦鯉の聖地」と呼ばれています。

紅白

大正三色

昭和三色

丹頂

白写り

秋翠

からし鯉

平成26年新潟生まれの新品種「黄白」

※写真提供：（株）錦彩出版

泳ぐ宝石・錦鯉

「錦」とは絹織物（着物）のことで、錦鯉の名前は鯉の鮮やかな色をたとえたものです。
錦鯉はその美しさから「泳ぐ宝石」や「泳ぐ芸術品」とも呼ばれ、海外の愛好家の間では「carp」ではなく、「koi」または「Nishikigoi」と呼ばれ親しまれています。
錦鯉の品評会では体型や模様、色の鮮やかさを基準として評価されます。新潟県では最も歴史のある品評会が開催され、国内外から多くの錦鯉愛好家やバイヤーが訪れます。また、現在では日本国内のみならず、世界各国で品評会が開催されています。

新潟の山間部に集まる海外の錦鯉愛好家

※写真提供：（株）錦彩出版